

野田不二夫先生の定年ご退職に寄せて

教育学科

清水 睦美

野田不二夫先生は2021年度末で定年となりご退職になりました。教育学科一同、先生のご退職を心よりお祝い申し上げます。

野田先生は1976年3月に東京学芸大学を卒業後、八王子市立第一小学校に赴任した後は一貫して東京都の小学校現場で、算数科教育研究や教育行政を中心にご尽力されてこられました。また1980年4月には東京都教育委員会から現職派遣で兵庫教育大学大学院に派遣され、82年3月には修士論文「現職教育の体系化についての基礎的研究（算数科現職教育の基底カリキュラム開発）」を提出され修士号を取得されました。その後、現場に戻られ、1998年には44歳の若さで八王子市立稲荷山小学校校長に就任して以来、八王子市立川口小学校、八王子市立長池小学校の校長を歴任し、2010～11年度には八王子市公立小学校校長会会長に就任され、教育行政職のエキスパートとしての手腕を発揮されてこられました。2014年3月に定年退職されたあと、2014年4月からは八王子市教育委員会研究主事を勤めておられましたが、2015年4月からは日本女子大学人間社会学部教育学科の特任教授として赴任され、以後7年間にわたって教職課程を中心とする業務に携わり尽力されてこられました。

ご専門は算数科教育で、特筆すべき業績としては、1990～91年にかけて日本数学教育学会教育課程検討委員として学習指導要領改訂へ向けての基礎的研究を行ったこと、2011～12年にかけて日本数学教育学会理事に就任していること、2012年度には東京都算数教育研究会会長に就任していることが挙げられます。あわせて、教育行政職としても、2001年に東京都教育委員会多摩教育推進委員会学校部会部会長として多摩地区小中学校の研究推進啓蒙活動を行ったこと、2001～02年にかけて八王子市教育委員会研究推進委員会委員長として八王子市内小中学校の研究推進啓蒙活動を行ったこと等が特筆されます。また研究業績も多数あり、「数学的な考え方・態度の指導事例集（3年）」（1992年）、「東京都算数教育研究会研究発表会報告書「全体指導と講評」（2014年）、平成23年度使用（2008年～2011年）の小学校算数科教科書（学校図書）、平成27年度使用（2012年～2014年）の小学校算数科教科書（学校図書）及び東京書籍、学校図書、大日本図書の教師用指導書など執筆に関わってこられました。

日本女子大学では、前述の教育現場での実務経験を生かして、教職課程を中心とする業務に精力的に携わってこられました。教職課程科目「教職基礎論」や小学校課程科目「算数科概論」「初等算数科教育法」などの授業科目では、教育現場の状況を踏まえつつ、教員を目指す学生に力をつけるべくきめ細かな指導をされておりました。また、「学校インターンシップ」や「教育実習」に向向く学生に対しては、その不安を取り除くように勇気づけ、心配事には丁

寧な聞き取りとアドバイスをされていました。さらに、教員採用試験に向けた対策講座も担当され、論文指導や面接指導など、試験前の不安いっぱい学生の求めに応じて休む時間を削って懇切丁寧に対応されておりました。こうした対応に多くの学生たちが勇気づけられ合格を手にしていきました。

特任教授の任期である最初の5年が終了した後の定年までの2年間は、教育学科の求めに応じて任期を更新してくださいました。この時期、教育学科は西生田キャンパスから目白キャンパスへの移転という大事業があり、加えて、西生田と目白それぞれにあった教職課程委員会の統合という事業に責任学科としての役割を果たす必要もありました。いずれの事業も莫大な労力を必要とするものでしたが、野田先生には移転と統合がスムーズに進むように、様々なところでご尽力いただきました。

このように野田先生のお仕事を振り返りますと、学生たちだけでなく、教育学科の教員も、そして教職課程を中心として本学にも、先生は本当に大きな力を与えてくださったとあらためて強く感じます。本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。